

米工だより

山形県立米沢工業高等学校

平成24年1月19日第12号

発行 校長 大津 清

スキー部ジャンプ・アルペン 蔵王インターハイへ

第61回全国高校スキー大会の予選を兼ねた県高校スキー大会ジャンプ競技が1月15日(日)に山形市蔵王ジャンプ台で行われ、C1-1島貫寛基選手が初優勝しました。また、18日(水)に、蔵王ハーネンカムコースで女子回転が行われ、C2-2五十嵐杏奈選手、M1-2牧野美咲選手が同順位の第9位に入り、全国大会出場権を獲得しました。おめでとう。

今年の全国高校スキー大会は1月30日(月)から地元蔵王で行われます。全国大会の舞台で全力を尽くし、全国に米工の名を知らしめてください。頑張れ。健闘を祈ります。

米工生の栄光の足跡

- JOC杯全国予選北海道・東北ブロック大会(12/25)
ジュニアの部 60kg級 優勝 佐藤 優哉(C2-2)
- 県高校スキー大会(蔵王 1/15)
ジャンプ 優勝 島貫 寛基(C1-1)
回転 第9位 五十嵐 杏奈(C2-2)
第9位 牧野 美咲(M1-2)
- 置賜地区高等学校交通安全標語入選
優秀 先どうぞ 心かよわす ゆずり合い 高石 滉己(M2-1)
優秀 歩行者も 目配り 気配り 忘れずに 栗野 優(定4)

新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

平成24年の新年は、穏やかな天候の中で迎えました。今年は辰年です。辰には「元気よくふるいたつ」という意味があり、動物には竜をあてています。十二支の中で唯一空想の動物が当てられ、自然の力を超越する福を与える神としてめざたい兆し(きざし)を表し、中国の昔の殷の時代から使われはじめて今日にいたっています。今年の干支(えと)にあずかり、ぜひ、元気よくふるいたって、困難を突破し、飛躍する良い年にしてください。

なぜ新年はおめでたいか

(吉田松陰の妹・千代への手紙より抜粋)

「新年」とは、「新しい年」ということだぞ。新しい着物、新しい道具などを考えてみよ。あかもつかず、きずもない立派なものをいうんだぞ。人の気持ちはむずかしいもので、師走になると「えい、今年はあとわずかじ。やぶれかぶれじゃ。来年から本領発揮じゃ」というすさんだ気持ちになる。それは「年というものにあかがつき、年にきずついた」ということじゃ。

ところが、一夜明けると、気がしゃんとして心から新しくなる。だから「新年」がおめでたいわけじゃ。

「目出度い(めでたい)」というがこれも難しいことじゃ。目というが目玉のことではない。目というは木の芽、草の芽のことじゃわい。草木の芽は冬至から、一日一日と陽気が生じるに従い萌えいずる。この陽気というものは物を育てる気のこと、天地にとっても人間にとっても好ましい気なのじゃ。陽気が生じて草も木もめでたいと思うのが「お目出度い」。これで新年が「おめでたい」のもわかるではないか。

前にも申したとおり、一夜明けると人の気がしゃんとして、投げやりな気持ちも汚れた心も洗い流され、人が本来持っている仁愛や慈悲の心が生まれてくる。これは、ちょうど草木の芽が出るのと同じこと。だから「新年お目出度うございます」なのじゃ。
(関厚夫著「ひとすじの螢火」)